

6.5 教育の質の向上

進捗状況報告

社会学研究科では大学院生の公開研究発表会を開催しており、そこでの公開指導によって、院生の研究進捗について把握している。副指導教員の義務化によって、指導教員・副指導教員による開かれた指導体制に動き出した。また、一部の講義、演習に複数教員による指導を実験的に取り込んでおり、今後その効果について検討する。シラバスについてはグローバルCOEプログラムへの申請などのために、先行的に実施した。全学的な授業評価アンケートを実施したが回収率がわるく、いまのところ効果測定の方法にするにはいたっていない。

学内第三者評価

公開研究発表会の開催、副指導教員の義務化による複数教員指導体制化及びシラバスの実施は妥当と認められる。授業評価アンケートの回収率の向上が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
大学院学生の公開研究発表会は優れた取り組みである。
大学院における授業評価アンケートは対象者が比較的少数であるために多少の困難が生じやすく、設問や回収方法に工夫が求められる。